

第 102回紫友まち歩き

地下神殿龍Q館と
首都河川・治水の歴史
～江戸から現代まで～

何回か予定されていたが実施できていなかった地下神殿龍Q館を訪れるまち歩きが、貸切バスを利用することで実施されました。案内人は、洪水対策施設である地下神殿訪問に加え、江戸から現代までの首都河川の治水の歴史訪問を企画してくれました。ほぼ歩かないまち歩きでした。

日時： 2024年5月18日(土)

集合時間： 12時40分

集合場所： 錦糸町駅そばパルコ前

参加者：まち歩き：19名

案内人：柴田 017D

懇親会： 完全個室イタリアンバル
845-HASHIGO

懇親会参加者：14名

歩いた歩数：貸切バス移動

<まち歩き>：

■まち歩き行程

錦糸町駅そばパルコ前→貸切バス移動→龍Q館・地下神殿見学→岩淵水門（車窓）見学→東京都慰霊堂→小名木川水門（車窓）見学→懇親会

<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。

① 錦糸町駅そばパルコ前：

13時少し前にバスが到着。乗り込み人数確認。20名のはずがどう数えても1名不足。1名が不参加確認でき、スタート。1時間ちょっとのドライブ。



② 貸切バス移動：

案内人がマイクで今回のまち歩きの趣旨等を説明。14:00前着が遅れ、どこにいるかの電話がかかってきた。14時ちょっと過ぎに龍Q館前に着き、まずトイレに行くようにと指導を受ける。



③ 龍Q館・地下神殿見学：

既に説明が始まっていた。チケット等配られる。



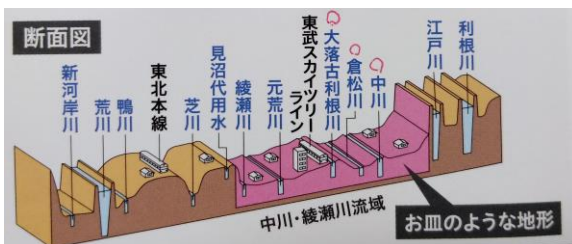
＜上の写真で、左側5つの立坑で雨水を集め、右上の貯水池に貯めて、ポンプで江戸川に流し込む＞

少し離れた地下神殿入り口の場所へ移動。グループ毎に階段を下っていく。



116段の階段。段々涼しくなってきた。12度くらいになるという。危険のため写真禁止。

＜パンフレットから機能概要紹介＞
埼玉県の中川・綾瀬川流域はお皿のような低い地形で、昔から浸水被害に苦しんでいた。



洪水被害を軽減するため、5つの場所で立坑を作り、溢れる雨水を取り込む(上写真の①②③④)。これを調圧水槽(長さ177m、高さ18m、幅78m)にため込み、巨大ポンプで江戸川に排水する仕掛け(上写真の右の⑦の下)。毎秒プールの一杯分の処理能力。

見学したのは、調圧水槽の空間にある巨大なそびえる柱群(⑤)。

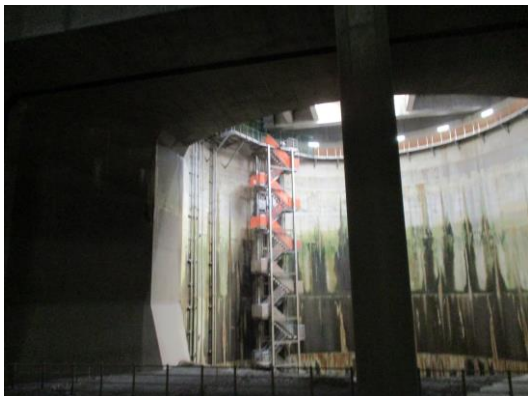


パルテノン神殿を想起させることから「防災地下神殿」と周知されている。

この柱を背景に記念写真を撮る。



巨大な第1立坑も見ることができる。
30分近く見学。

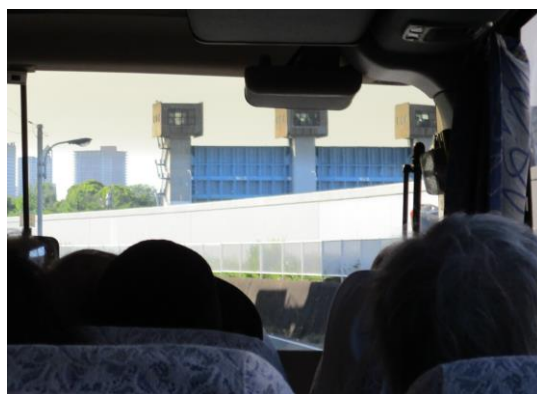


地下神殿の上部はサッカー場のような広場になっていて、ここでも集合(バラバラ)写真を撮る。



④ 岩淵水門（車窓）見学：

15時頃に出発。車窓で初夏の景色を見学しながら、北区の岩淵水門へ向かう。
＜大正時代の荒川洪水対策＞
氾濫を繰り返した「荒ぶる川」対策で、パナマ運河建設に携わった青山士（あきら）により大正5年から8年間の歳月をかけて建設されたのが岩淵水門。以前まち歩きで訪問しているの、車窓のみ。ただ、堤防のような高い塀で一部が見えるだけであった。



⑤ 東京都慰霊堂：

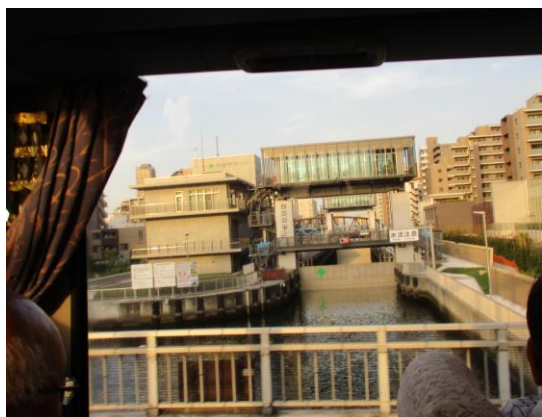
トイレ休憩もかねて東京都慰霊堂を下車して見学。墨田区の横網町公園内にある慰霊施設。1930年に関東大震災の身元不明の遺骨を納め、死亡者の霊を祀る震災記念堂として創建され、1948年より東京大空襲の身元不明の遺骨を納め、死亡者の霊を合祀して、1951年に現在の姿になったという。



⑥ 小名木川水門（車窓）見学：

国技館の前を通過して、小名木川水門を車窓から見学。ここも2度ほどまち歩きで利用したという。
江戸時代、行徳から塩を運搬するために開削された人口の水路と言われている。台風時の高潮進入から地域を守

るための水門で、大地震発生時は直ちにゲートを閉鎖し津波に備える。普段は航行する船の出入口となっている。



示されてしまいました。



⑦ 懇親会

5/1 にオープンしたというイタリアンバルで、懇親会は始まる。QR コードをスマホで読み込み、スマホで注文する方式は年長者には少しつらかった。良く飲み、赤白ワインは在庫なしと表

次回の京都のまち歩きの紹介もありましたが、インバウンドで宿泊代が非常に高額であるのが課題とのこと。

以上

